合言葉は「子どもたちの成長のために」

特定非営利活動法人 せんだい杜の子ども劇場
代表理事　齋藤　純子

皆様、あけましておめでとうございます。

正月２日早朝の積雪（仙台市泉区）にはびっくりしましたが、皆様にはご家族お揃いで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。2022 年は長引くコロナ禍の中でも、せん杜を支えていただき誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、年末には通常総会を開催いたしました。まずはご提案いたしました議事がすべて承認されましたことをご報告いたします。直接参加型の総会とし、参加者数は少なかったものの大変中身の濃い総会となり、気が付くと３時間が経過していました。総会報告は別ページに記載してありますが、せん杜の事業について深く協議できたこと、今後の事業継続に活かすことができるアドバイス、そして今後の組織としての展望を共有できたことが大きな財産となりました。ここがせん杜の強みであると思います。

昨年を含めコロナ禍の３年間で、私はとても憂慮していることがあります。子どもたちの心身の成長が停滞している事、子育て世代も世代間コミュニケーションが減ったことで自分や家族以外の相手に不安を感じギクシャクしている事です。せん杜が携わっている事業は子ども＆子育て支援であることは言うまでもありませんが、其々の現場から共通に表れている事といえます。コロナ禍以前では年齢に応じた子どもの成長は階段を上るように積み重なっていく様相が見えましたが、特に学齢期の子どもの体格は大きいけれど体力がない、情操的成長には極端な言い方をすればボーダレス部分が生じているように思います。異年齢の子どもたちや大人たちが集えない状況はボディブローのように影響しています。

このような状況をどのようにして打開していくのか。With コロナの今、状況に応じて変化せざるを得ないことは続くでしょうが、多様な人々と具体化していく姿勢は昨年以上に必要になってくると思われます。そのために、社会から学び力を借りて一緒に具体化していくコミュニケーション力と客観性がせん杜には必要なのではないでしょうか。せん杜自体の自己肯定感を高めつつ謙虚に社会のニーズを受け止めて、心の拠り所となる居場所と子どもの体験場所そして素敵な人間に出会う機会をつくることを積み重ねていくことに尽きると考えます。

私事ですが、昨年、恩師が逝去致しました。先生は自治行政について研究され複数自治体のアドバイザー等も務められましたが、30 数年前の米国への留学で「協働」の概念を日本に持ち帰った一人でもあります。残念ながら先生の帰国後は当方の子育て時期と重なり、その詳細について拝聴する機会はありませんでした。しかしながら、PTA や地域活動、NPO 活動等を通して様々な出会いから今日を振り返ってみると、先生から教授いただいた事が基本になっていることに今更ながら気づき、「協働」を様々な分野の人々と共に積み重ねてきたことに不思議な感慨を覚えます。『協働は、異なる能力や資源と労力や時間を有する多様な主体が互いにその違いを尊重して力を出し合い、皆が直面する問題を解決して豊かな地域社会を築いていくことを内包した動態的な組織概念である。』という先生の言葉を念頭に、せん杜の成すべき今年の役目を代表理事として担っていきたいと思います。

末筆乍ら、皆様にとりまして 2023 年が幸多き一年となりますようご祈念申し上げます。

2023 年正月